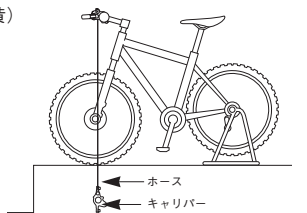


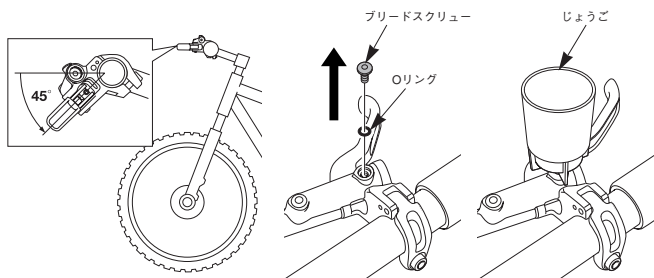
ミネラルオイルの注入と 気泡抜き

キャリパーのエアー抜き作業の時には
SM-DISC(じょうご、オイルストッパー)が必要です。

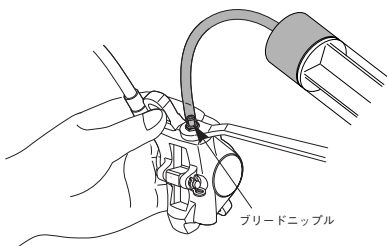
キャリパーにブリード用スぺーサー(黄)をつけたままスタンド等を利用して、図のように自転車をセットします。



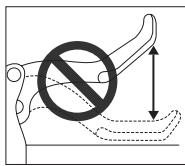
1. ブレーキレバーを水平から45度ほど傾け、乗車時の位置にセットします。上側のブリードスクリューとOリングを取り外し、じょうごをセットしてください。このとき、オイルストッパーはセットしないでください。



2. 7mmめがねレンチをセットし、注射器に油を入れてからチューブをブリードニップルにつなぎ、ニップルを1/8回転緩めて開きます。注射器の柄を押して油を注入します。油がじょうご内に出てくるようになります。気泡が混じらない油が出てくるまで油を注入し続けます。

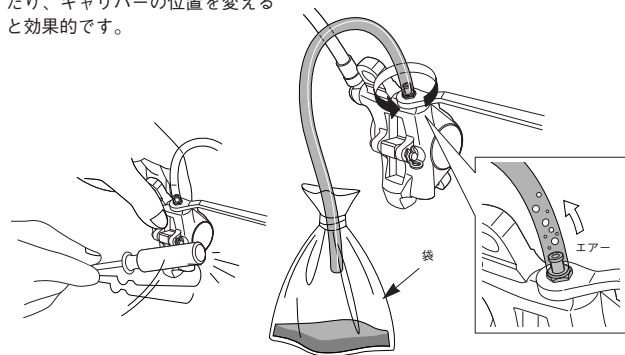


3. 気泡が混じらなくなったらブリードニップルを一旦閉じます。

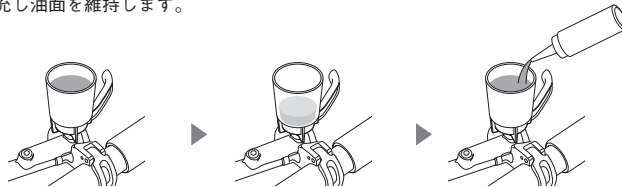


この時点でレバーの握り離しを繰り返す作業はしないでください。キャリパー内の気泡と油が混ざって気泡抜き作業に時間がかかります。(もしレバーの握り離しを繰り返してしまった場合は、一旦油を全部抜き取り、再度油の充填を行ってください)

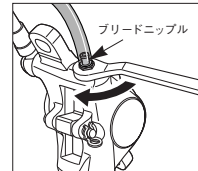
4. 図のように7mmめがねレンチをセットし、チューブに袋を取付けます。チューブをブリードニップルにつなぎ、ブリードニップルを緩めます。しばらくそのままにしておくと、ブリードニップル側からチューブへ自然に油とともに気泡が抜けてきます。こうすることにより、ブレーキシステム内に残された大半の気泡を簡単に排出することができます。このときホースを軽く揺らしたり、リザーバータンクやキャリパーをドライバー等で軽く叩いたり、キャリパーの位置を変えると効果的です。



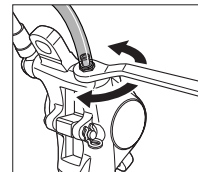
5. このときにじょうご内の油面が下がりますので、空気を吸わないよう(空気が入らないように)油を補充し油面を維持します。



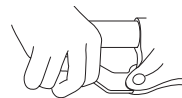
6. ブリードニップルから気泡が出なくなったら一旦ブリードニップルを締めます。



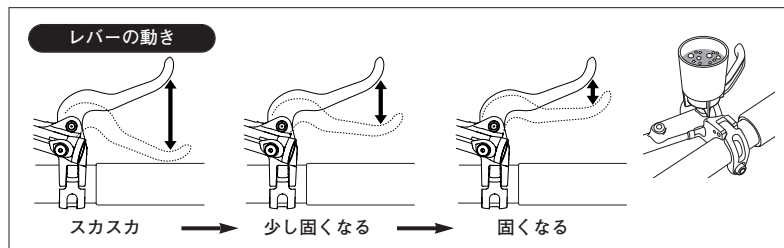
7. ブレーキレバーを握った状態でブリードニップルを瞬間開け閉め(約0.5秒間)してキャリパー内の気泡を排出させます。これを2~3回繰り返します。その後、ブリードニップルを締め付けます。



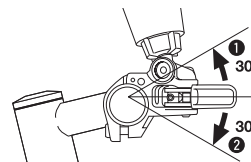
締め付けトルク:
4 - 6 N・m [40 - 60 kgf・cm]



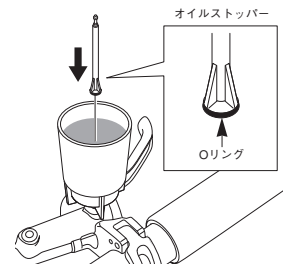
8. ここでブレーキレバーをゆっくり操作するとブレーキシステム内の気泡がポートからじょうご内が上がってきます。気泡が出なくなったらブレーキレバーを当たりまで握ります。レバー当たりが固い場合は正常です。



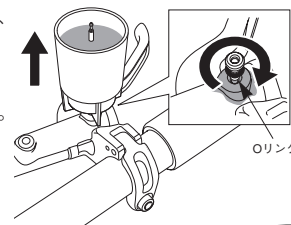
9. レバー本体を図のように水平にし、①の方に30度傾け、8の作業を行い、残留エアーがないか確認します。次に②の方へ30度傾け、同様に8の作業を行って残留エアーがないか確認します。気泡が出る場合は出なくなるまで繰り返してください。



10. オイルストッパーのOリングの付いている側を下にして、じょうごに栓をします。

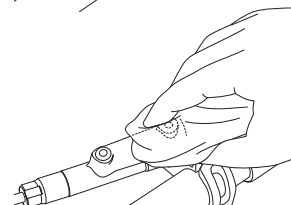


11. オイルストッパーで栓をしたまま、じょうごを取り外し、リザーバータンクに気泡を残さないように油を溢れさせながら、ブリードスクリューにOリングをつけて締め付けます。
※この時、ブレーキレバーの操作は行わないでください。シリンダー内にエアーが混入する恐れがあります。



締め付けトルク:
0.3 - 0.5 N・m [3 - 5 kgf・cm]

12. 溢れたオイルを拭き取ります。



* 取扱説明書は以下にてご覧いただけます。
<http://techdocs.shimano.com>

製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。



お客様相談窓口
☎ 0570-031961 Fax. 072-243-7847

株式会社 シマノ
堺市堺区老松町3丁77番地 〒590-8577